

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、学長、総長などを経て、二〇一五年十一月より現職。

アヘン、煙草、酒

私は長年のスモーカーである。毎夜、酒を欠かすこともない。酒と煙草に依存してこの歳までまあ元氣でいられたのだから、最期までこれに依存しつづけるのだろうと想像する。

後藤新平が台灣總督府民政長官として赴任したのは明治三十一年であった。往時、後藤を悩ませた最大の難事が住民のアヘン吸引の常習化であつた。実際、明治二十九年に後藤が初めて訪台、台北の街をみて驚いたのは、内地の街であればどこにでもみられる酒と煙草を売る店舗がほとんどないことだつた。「嗜癖」というのは、『はまる』とか『のめり込む』といった意味の用語だが、アヘンはこの嗜癖性において酒や煙草よりも強いものらしい。街で酒や煙草が売られていないのは、アヘンによつてこれらが駆逐されているからだと後藤は悟る。ここからが、類例のないほどに怜悧な後藤の着想である。帰国後の「意見書」にこう書く。

「人類ノ嗜好ナルモノハ之ヲ止ムルコト難シ。只之ヲシテ他品ニ変更セシムルノ策ハ最モ講究スベキ価

値アルモノトス。故ニ台灣阿片烟禁止法ハ布クト同時ニ、嗜好品変更ヲ誘導スルノ方法トシテ台灣島内ニ於ケル酒類ノ釀造、煙草ノ製造ハ一切之ヲ無税トシ、以テ害少キ嗜好ニ変移セシムルノ政策ヲ施スハ、禁止法ノ施行ニハ最良ノ方法タルベキヲ信ズ」人間は何かに依存せずに生きてはいけない、後藤は人間をそのようにみていた。かくして後藤は「アヘン漸禁策」に打って出る。アヘン専売制度を施行、アヘン常習者のみに購入を許すための通帳を保持させ、認可された仲買人と小売のみに販売者を特定化し、販売価格を從来の三倍以上とした。専売収入は一般財政収入に組み込むことなく、そのすべてをアヘン漸禁、その他の衛生費に充當しようといふなどな政策であった。後藤による台灣でのアヘン専売こそが、後の日本の煙草、塩、樟腦などの専売制度の原型である。

「人類ノ嗜好ナルモノハ之ヲ止ムルコト難シ」。日々に狭まりつつある喫煙空間の中では、私はこの言葉をつぶやきながら煙を吐いている。